



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 243
June
2013

トピックス

国際会議への参加

第4回防災グローバル・プラットフォーム (GP) への参加

第4回防災グローバル・プラットフォーム (GP) - IRP サイドイベント

お知らせ

ブックレット

『Business Continuity Management Booklet for Small and Medium-Sized Enterprises』の公開

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区臨海海岸
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

●国際会議への参加

第4回防災グローバル・プラットフォーム (GP) への参加

アジア防災センター (ADRC) 及び国際復興支援プラットフォーム (IRP) は、5月21～23日 (19及び20日にもプレイベントを実施) の間、スイス・ジュネーブ市国際会議場において開催された「第4回防災グローバル・プラットフォーム (GP)」に参加しました。同会議は、国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) が主催し、世界の防災関係者が一堂に会する2年に1回の機会です。今年は171の中央/地方政府の代表に加え、国際/地域機関、学会、民間セクター、女性/障がい者/高齢者/子ども等の安全に関する市民団体等から延べ約3,500名が参加しました。



会場のジュネーブ国際会議場 (UNISDRのHPより)

今回のGPの大きなテーマは、こうした防災関係者の力を結集させる機会のほか、防災に関する世界的取組み指針である「兵庫行動枠組」

(HFA) の目標年次を2015年に控え、HFAの進捗状況の確認と、それらを踏まえ、次の行動枠組み (HFA2) の在り方に関して議論することです。GPの開会式は、21日の9:30から大会議場にて開催され、開催国スイス連邦のマウラー大統領、国連のエリアソン事務局次長をはじめ、ナミビア・ニュージーランド等各国の代表が挨拶を行いました。

この後、10以上の会議室に分かれて、参加国等からの公式ステートメント、参加機関の事業内容や研究成果等を紹介する延べ170のイベントが開催されました。

ADRCは、21日の14:45から16:15の間、アジア災害予防センター (ADPC)、アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN) と共催して、「アジア地域における防災協力～技術革新と協働による災害レジリエンス構築」と題する会合を開催しました。同会議においては、中央政府レベルの防災協力のネットワークのハブであるADRC、アジア工科大学を母体とし特に東南アジア地域において高度な技術協力プロジェクトを行っているADPC及び防災に関するアジアのNPOのネットワークであるADRRN



(左) イラン防災庁ガダミ長官 (左) と会談するADRC名執所長 (イラン防災庁HPより)
(右) 閉会式において次期防災世界会議の仙台開催を発表する亀岡大臣政務官 (画面中央)

続き

がそれぞれの業務における地域内協力の特長を紹介しました。ADRCからは、中央政府レベルの国際防災協力のgood practiceとして、日本の宇宙航空研究開発機構等各国の宇宙開発機関と連携して実施している「センチネル・アジア」の取組みについて紹介しました。この後討議が行われ、アジアには既に域内協力機関が重層的に存在しており、各機関がその特徴を生かして積極的に協力関係を深めるべき等の意見が出されました。

この会合と前後しますが、当日14:00からJICAと国連開発計画との主催で「防災の経済学－防災投資を通じた持続的開発の推進」が開催されましたが、これは、JICAが昨年度実施した（ADRCは委員として参画）、防災投資が後の経済成長に与える貢献の定量的把握手法の紹介であり、多くの国際機関等から参加がありました。

こういった行事以外にも、期間中には各国・機関間の情報交換等の場が持たれました。22日、ADRCは、昨年12月に新たにメンバー国となったイラン・イスラム共和国の防災組織の高官（ガダミ内務省次官兼防災庁長官）と会談の機会を持ちました。次官からは同国の防災力向上に向けADRCの協力を仰ぎたい由の発言があり、当方からは客員研究員招聘等ADRCの事業の展開により同国の意向に沿いたい旨回答しました。なお、この会談の概要は後日イラン防災庁のHPでも紹介されました。

最終日となる23日には国際防災復興協力機構（IRP）の主催するフォーラムが開催されました。内容の詳細は次の記事をご覧ください。

同日16:30から大会議場において閉会式が開催されました。まず議長（ダニデン・スイス開発協力機構会長）から議長サマリーの案が提示されました。ワルストロムUNISDR特別代表から参加者への謝辞が述べられた後、日本国政府代表の亀岡偉民 内閣府大臣政務官（防災担当）から、日本での開催が決定している次期国連防災世界会議について、2015年3月に仙台市で開催することを表明して3日間の会期を終了しました。

第4回防災グローバル・プラットフォーム（GP）－IRP サイドイベント－

会議3日目（5月23日）に、内閣府及びIRP事務局の主催により「巨大災害からの復興の教訓」をテーマにサイドイベントを開催し、ADRC参画のもとIRPパートナー機関、国際機関、各国政府、地域機関、NGOなどから124名の参加を得ました。ニュージーランド、日本、米国、パキスタンにおける効果的な復興の経験について報告が行われ、また開発計画の中に復興をいかに統合するか、また効果的な復興戦略、枠組への取組についても言及されたほか、2015年以降の防災枠組（HFA2）を見据えた、復興に係る戦略的提案についても議論されました。



まず、開会にあたり、亀岡偉民内閣府政務官は、東日本大震災の復興状況や震災から得た教訓を発信する「東日本大震災復興状況報告書」の作成など、これまでの取組について述べられ、また、過去の災害の経験をもとに、今後も国際防災を主導していくことを表明されました。また、兵庫県の杉本明文防災監は、井戸敏三兵庫県知事からのメッセージとして、東日本大震災において兵庫県が関西広域連合の一員として、現地に対策本部を立ち上げ、カウンターパート支援として特に宮城県を支援し、被災地の復興、コミュニティの再生、阪神・淡路大震災を経験した心のケアの専門家の派遣等を行っていることなどを紹介されました。

続いて、拉曼大学（神戸大学）の田中泰雄教授の進行により、ニュージーランドのカンタベリー地震復興庁CEOのロジャー・サットン氏、立命館大学（神戸大学）の塩崎賢明教授、米国連邦緊急事態管理庁（FEMA）のデヴィッド・トリッセル氏、パキスタン政府国家防災庁元長官のナディーム・アーメッド氏をパネリストに迎え、パネル・ディスカッションが行われました。議

続き

論の中では、HFA2における復興の明確な位置づけの必要性を示す具体的な例として、第1には、復興に民間セクターを巻き込むことの重要性、第2に、法的、社会的な復興枠組によって、より持続可能な取組が可能となること、第3に、復興枠組により現地活動を効果的に方向付けることが可能であるということが挙げられました。

また、今回の防災グローバル・プラットフォームには3,500名を超す参加者があり、IRP/ADRCはこの機会を捉え、マーケットプレイスにおいて、復興状況報告書及びガイダンスノート等の発行物や各種パンフレットと共に、特に「東日本大震災復興状況報告書」の展示、配布を行いました。この件についてのお問い合わせは、IRP事務局の河内(kouchi@recoveryplatform.org)までお願いします。

●お知らせ

ブックレット『Business Continuity Management Booklet for Small and Medium-Sized Enterprises』の公開

ADRCは中小企業の事業継続マネジメント（BCM）に関するブックレットを作成いたしました。10の簡単なステップを用いて、企業のBCM実施を支援するものです。本書を含む、民間部門の防災に関する出版物は下記のページよりご覧いただけます。

<http://www.adrc.asia/publications/psdrr/>

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。